

No.87
2020
1/30



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



申8号 豊田車両センターで発生した設備不良に伴う命を失いかねない感電事故に対して安全な労働環境を確保するための緊急申し入れ団体交渉を行う!(1月28日) その1

現場把握の欠如や委託拡大が要因 組織事故であることは明らかだ!!

今事象の時系列を明らかにすること。

2018年12月8日に断路器の接地線を撤去、2020年1月21日施工のところ、12日に新設断路器の+ (1500V プラス) 線を接続してしまった。接地線を撤去していなければ、断路器を「切」にした時点で変電所のHP動作するが、2つの要因が重なり今事象に至った。

接地線を撤去した理由を明らかにすること。

2018年当時、土木から電力に12両化工事で支障することから、使用休止中であった22番線接地線撤去の照会があり、電力は問題ないと回答した。今事象の調査により、当該21番線の接地線が一括で22番線に接続されていたことが発覚した。電力では接地線の図面は存在せず、今後対策として回路の把握を行い図面作成していく。

配線(接地線)の図面も存在せず把握していなかった!

新設断路器の配線を接続した理由を明らかにすること。

当該断路器は21日に改廃工事を行う予定であったが、現場請負会社社員が21日当日の業務量を減らすために接続してしまった。作業者は接続すると1500Vが加圧される認識はあったが、既設の断路器で「切」とできなくなると気付かなかった。

新設と既設の改廃工事当日の間合い時間は不足していないのか。
12両化工事に伴いパートナー会社に無理な作業を発注していないのか。

JR本体とパートナー会社とで打ち合わせを行い意思疎通は図ってきており、出来ない作業の中身ではなかった。改廃工事当日に列車遅れなどで、間合い時間が減る可能性もあるので、作業者は作業を進めてしまった。

JR本体は工事の確認を行っていないのか。

責任施工であり、パートナー会社の工事指揮者に委ねられている。JR本体は竣工確認や安全パトロールなどで立ち会うことはあるが、随時確認には行かない。

対策を講じ同種事故を再発させないこと。

き電区分に係る工事(危険な個所)については、写真や作業手順などが記載されている施工ステップ図をパートナー会社が作成し、JR本体と施工手順について事前に確認するようにしていく。

パートナー会社の施工内容を細かく把握していなかった!

(その2に続く)